

混合交通を観察する
DOCUMENT EYE

138

横断歩道以外を横断中、子どもが親の手を離れてしまった例も

観察は東京・墨田区の京成曳舟駅から

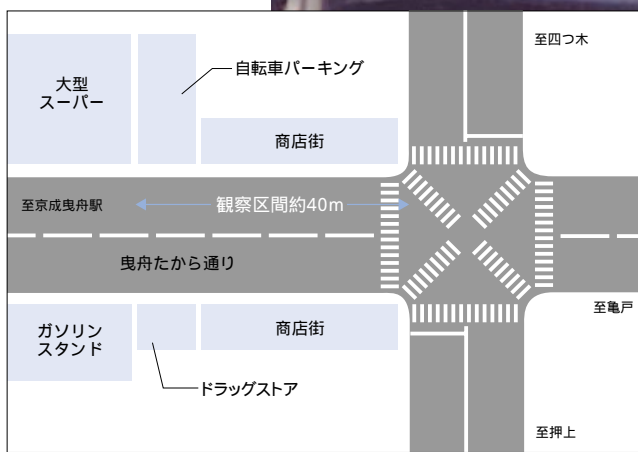
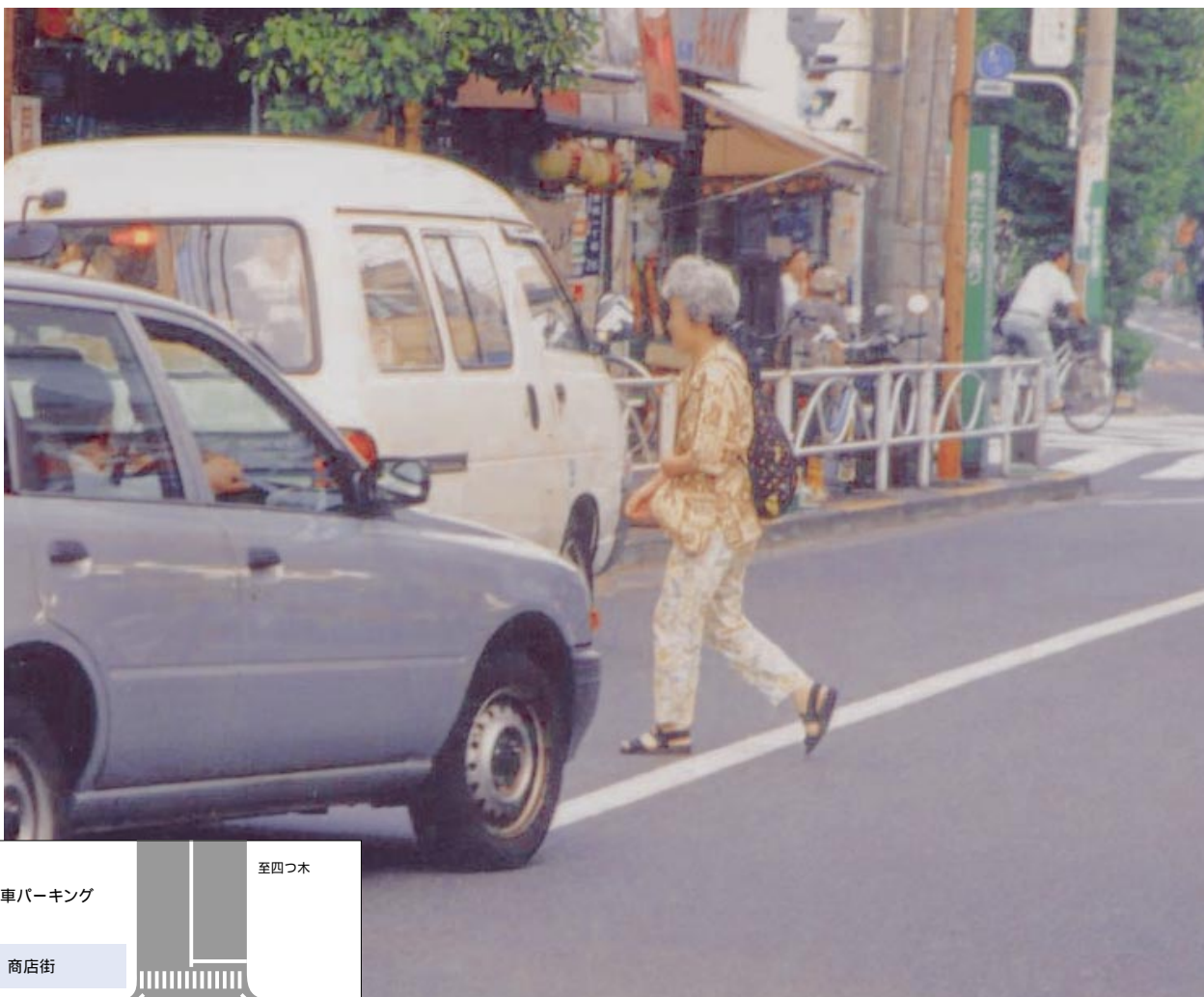
WATCHING

平成12年の歩行中の交通死亡事故は減少しているものの、横断歩道を渡らないなどの「その他横断中」の死者数は前年比18人増の1114人と増加に転じている(平成12年版交通統計より)。
買い物客らでにぎわつ下町の大型商業施設付近で、平日の夕方と夜間に歩行者と自転車の横断について観察した。

WHY

歩行者と自転車の横断状況は?

ほぼ近い片側1車線の「曳舟たから通り」で行なうた、通り沿いには大型スーパーやガソリンスタンド、ドラッグストアなどがあり交通量は多い。40mほど離れた交差点には横断歩道が設置されている。月曜日の夕方(5時20分から1時間)と、日没後の夜間(7時15分から1時間)を同一場所を観察し、それぞれ横断歩道を利用しなかつた歩行者および自転車を観察した。



観察地点 / 東京都墨田区京島1-27付近
観察日 / 7月10日(月曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 夕方17:20~18:20 夜間19:15~20:15
観察者 / 3名

歩行者と自転車の横断を観察する
2時間(夕方・夜)に横断歩道以外を渡った歩行者・自転車443人



横断歩道以外を横断する歩行者・自転車(夕方17:20~18:20)

		左右確認あり	左右確認なし	小計	計
		歩行者	男 22	15	
	女 119	102	221		
自転車	男	5	11	16	45
	女	10	19	29	
計		156	147	303	

行者116人、自転車24人。多くは買い物にやってきたとみられる女性だった。左右の安全確認だが、何度か左右の安全確認を行なう人、一方だけを確認する人、全く顔を動かさずに目視だけの人と様々だった。横断歩道以外を横断するために数人でかたまっている場合、後続の人はほとんど左右確認を行なっていない。渋滞中のクルマの陰から飛び出す人も多かった。中には携帯電話で話しながらクルマの接近に気付くのが遅れてセンターライン付近で急に立ち止まったり、最初から最後までクルマを気にせずに堂々と渡っている人も。高齢者と見られる人も目立ち、杖をついた歩行者も見かけた。総じて高齢者の歩行速度はかなりゆっくりであった。おばあさんと孫と見える二人連れがゆっくり横断していくのも観察された。

横断歩道以外を横断する歩行者・自転車(夜間19:15~20:15)

		左右確認あり	左右確認なし	小計	計
		歩行者	男 12	18	
	女 41	45	86		
自転車	男	3	6	9	24
	女	7	8	15	
計		63	77	140	

夕方には観察中、母親らしき女性が4歳くらいの幼児の手を引いて横断を始めたのだが、クルマが接近してきたため母親がセンターライン付近で停止。幼児だけが渡り切ってしまったというとても危険な場面に出くわした。一方で小学生とみられる子どもたちだけの横断歩道以外の横断は見られなかった。子どもが横断歩道以外を横断するのは大人と一緒にいるケースが大半だった。

横断歩道が設置されている道路では、横断歩道を利用する。にもかかわらず、つい面倒だとばかりに勝手に横断歩道以外を横断する歩行者・自転車が後を絶たない。ドライバーも歩行者や自転車の突然の飛び出しをすべて予測できるわけではない。自らが「危ない状況」を作り出していることをわかってほしい。今回の観察で大人が子どもの手を引いて、あるいは子どもを自転車に乗せて横断歩道以外を横断している姿が目立った。親子で子どもの手本になってほしい。

PROPOSE

子どもの手本になるよう大人がルールを守って横断歩道を渡ろう



夜間時は車道の交通量は少なくなったが、違法駐車が目立ってきたほか、自転車のほとんどが無灯火で通過していったのには驚かされた。横断歩道以外を横断する人数は夕方にくらべて減少したものの、危険な状況は増えたといえる。当日は暑かったせいか、歩行者・自転車も白っぽい服装の人が多かったが、それでも夜間のために当然被視認性は低下しており、ドライバー側からの発見は遅れてしまったらと思う。